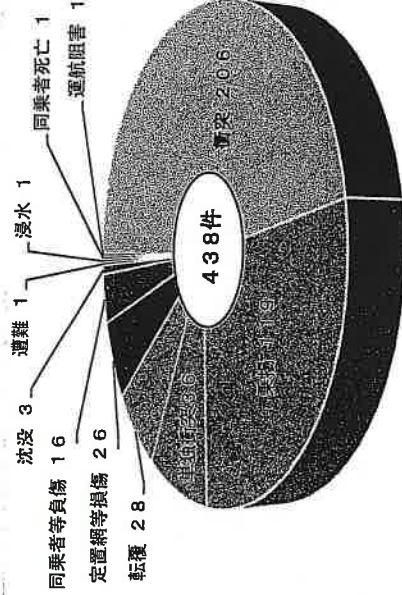


【挨拶】今年度、君たちの航海計器2を担当する橋本です。挨拶が遅くなりました。私は、大島南高校海洋科教員・大島海洋国際高校で25年間関わってきました。現在66歳のおじいちゃんですが、残りの人生、一年一年、海洋・水産系を学ぶ後輩の学びを支援したいと思いい大島に戻りました。よろしくお願います。

【授業の内容】

- 主として、海の交通ルール（海上衝突予防法・港則法・海上交通安全法）を学びます
- 小型船舶操縦士資格の取得を法規部門からサポートします。
- 私は、高校生の時期は「自分で考える・自分で判断できる・自分で行動できる」という力を身に着ける時期だと思っています。そこで、授業では、法規の単なる暗記ではなく（基本は覚える必要あります）、どのように活かすのか、何を考える必要があったのかなど「考える場面」を取り入れていきたいと思っています。その方法の一つとして、グラフの読み取りや実際に発生した海難事例をもとに、進めていきます。解説もなく解くのは難しいと思いますが、まず、チャレンジしてください。君たちとお話したいことはたくさんありますが、それは今後の楽しみにしています。

問題1 平成26年度から平成30年度の5年間で発生した海難件数は4802件、そのうちモーターボートによる海難は952件です。海難発生数全体は年々減少していますが、モーターボートによる海難はほぼ横ばい状態で減少していません。さて、下記円グラフは、そのモーターボートによる海難を種別に表したものです。この円グラフから読み取れることを述べなさい。また、そのことについてあなたが思うこと（考えたこと）を述べなさい。



平成26年から平成30年二載決言瀕のあった事件種類別状況

問題2 次は「航行中のモーターボート同士が衝突した事例」の概要です。同概要と各船の状況を踏まえ、各問いに答えなさい。

【概況】 A船（登録長7m）は、船長aが乗り組み 知人2人乗せ、釣り場に航行中
 B船（登録長6m）は、船長bが乗り込み 友人3人乗せ、漂泊地に向け航行中

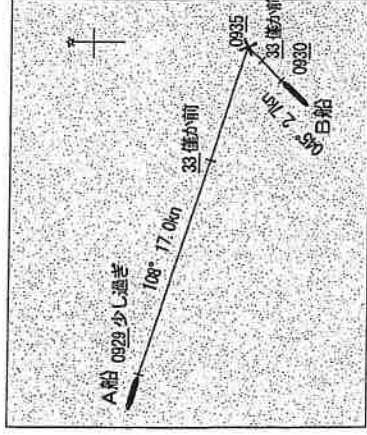
A船とB船が衝突し、互いに船体に亀裂が生じた。当時、天候晴れ、風力3の北東風が吹き、視界は良好で、海上はやや波があったが概ね穏やかであった。

【A船の状況】

A船は07時40分 係留地を出航し、釣り場で漂泊して釣りを行った。

09時29分過ぎ 釣り場を発進して108度の針路及び17ノットの速力で次の釣り場に向かって進行した

09時33分ごろ、船長aは発進時に目的の釣り場まで水域に一見したが、船舶を見かけなかったため、航行の支障となる他船はいないものと思い進行した



【B船の状況】

B船は、08時20分 係留地を出航し、釣り場で漂泊して釣りを行った。

09時30分 船長bは風潮流でB船が流されたので、漂泊開始地点に向け、045度の針路及び3ノットの速力で進行した。

09時33分ごろ、発進開始時に周りを一見したのち、前路の波を見ることに気をとられA船に気づかないまま進行した

09時35分 航行中の両船が衝突した

ア 船舶の衝突を避けるための海の交通ルールは海上衝突予防法です。予防法では、この両船の位置と進行方向から両船はどのような関係といえるか。(ヒント 〇〇の航法を探してみる)

イ A船とB船はそれぞれどのように行動すべきか。A船とB船に分けて答えなさい。
 【A船】

【B船】

ウ イを踏まえると、この衝突事故の原因は何だと思うか。あなたの考えを述べなさい。